Granada Si ⑧ワルツ　弧状に舞った骨材の転がり跡が、ワルツを連想。温かみのある意匠を御提供します。

●使用材料･使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダSi	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋
専用骨材7厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ＋硬質スタイロ板＋コテ

●標準施工仕様

（23℃、50%RH）

工程	使用材料		調合（重量比）	所要量（kg/㎡）	塗り回数	工程間隔時間（hr） 工程内	工程間	備考
下塗り	キクスイ プライマースーパーE		15kg 無希釈	0.1～0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダSi		20kg	0.8～1.0	1	―	6以上	リシンガン 口径:4～6mm 吹圧:0.5～0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り	1～2kg					
		コテ塗り	0～0.5kg					
模様塗り	グラナダSi		20kg	2.5～3	1	―		スタッコガン 口径:8～10mm 吹圧:0.4～0.6MPa コテ
	専用骨材1厘		5kg					
	専用骨材7厘		10kg					
	清水		0～0.5kg					
パターン付け	配り均し後、硬質スタイロ板などを使用 し表面を円弧を書くように骨材を転がして意匠付けをする。バリなどは、軟らかめのコテで表面を整える。						追っかけ模様付け	硬質スタイロ板 コテ(押え)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					―	直後又は乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					―	24以上	

●標準施工要領

1.下塗り

①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2.基層塗り

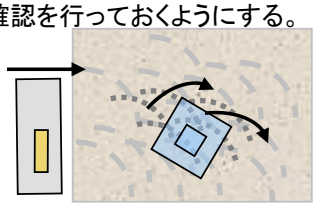
①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3.模様塗り

①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
②主材は定められた模様になるように指定された骨材･清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4.パターン付け

①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:240～270mm程度のコテを使用してしごく様に均し、続いて150mm角程度の硬質スタイロ板を弧状に廻しながら意匠付けする。
②続いて、表面のバリや引き摺りをコテで軽く押えて整える。パターンは塗布量の多少により骨材の転がりの仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
④模様塗り･パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
⑤弧を描くように硬質スタイロ板を運び、こまめに、板に付着のネタを濡れウエスで清浄にしながら意匠付けする。
⑥骨材の転がりの弧状模様はランダムさを持たせる。
⑦骨材の転がりの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



5.養生撤去他

①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。